



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月10日

上場会社名 新日本理化株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4406 URL <https://www.nj-chem.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 三浦 芳樹  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員企画管理本部長 (氏名) 埜下 太一 TEL 06-6202-6598  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切り捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	16,861	10.8	△210	—	61	△87.8	△47	—
2022年3月期第2四半期	15,212	39.0	391	—	505	135.0	299	151.9

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 282百万円 (△60.7%) 2022年3月期第2四半期 718百万円 (37.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△1.27	—
2022年3月期第2四半期	8.02	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	40,492	17,074	39.6	429.68
2022年3月期	40,086	16,999	39.8	427.44

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 16,020百万円 2022年3月期 15,936百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,000	2.0	200	△83.4	500	△68.5	200	△75.3	5.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	37,286,906株	2022年3月期	37,286,906株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	2,870株	2022年3月期	2,605株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	37,284,200株	2022年3月期2Q	37,284,927株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、中国のゼロコロナ政策の継続に加え、ロシアのウクライナ侵攻に端を発したエネルギー価格の高騰などにより景気減速懸念が強まり、先行き不透明な状況で推移しました。わが国経済においては、新型コロナウイルス感染症の第7波により感染者数が過去最高となった一方、行動制限や入国制限が徐々に緩和されるなど、ウィズコロナでの景気回復に向けた動きもみられました。しかしながら、欧米における金利上昇を背景にした急激な円安の進行やエネルギー価格をはじめとする物価の上昇が景気回復のペースを鈍化させる状況にありました。

当社グループを取り巻く環境においては、原油・油脂相場は下落基調にあったものの、サプライチェーンの混乱による原料調達先の変更、円安の進行による原料価格の上昇などに見舞われたことから、厳しい事業運営を強いられました。

このような環境のなか、当社グループにおきましては、2021年度よりスタートした中期経営計画に掲げる目標「環境・社会・人(命)に関わる課題に果敢にチャレンジし、価値創造企業を目指す」の達成に向けて取組みを進めております。事業活動における環境負荷を低減させるため、再生可能エネルギーの調達を開始したほか、環境課題へアプローチする分野に開発資源を集中するなど、研究開発プロセスの改革を進めております。2022年6月に上市しました新たな結晶核剤「R i K A C R Y S T A」は、ポリオレフィン樹脂の成形加工においてサイクルタイム短縮に貢献し省エネルギー効果を得られるものとして、成形加工メーカーでの良好な評価結果を得ております。しかしながら、業績面におきましては、原料価格高騰に対応すべく製品価格の見直しを進めるなど採算性向上に努めましたが、需給バランスの悪化などによる販売数量の伸び悩みも重なり、収益面で計画を下回る結果となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、168億6千1百万円（前年同四半期比10.8%増）となり、損益面では、営業損失2億1千万円（前年同四半期は営業利益3億9千1百万円）、経常利益6千1百万円（前年同四半期比87.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失4千7百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益2億9千9百万円）となりました。

主要製品の概況は次のとおりであります。

生活産業関連向け製品においては、トイレットリー・繊維油剤原料向けアルコール及び脂肪酸の原料調達に苦戦し、販売数量が低迷しました。食品・医薬品向け添加剤及び日用品向けの結晶核剤についても需要が低迷し、数量は前年を下回る結果となりました。しかしながら、原料価格高騰に伴う製品価格の見直しなどの対応を行った結果、売上高は前年を上回りました。

床材や電線被覆材などの建材向け原料である可塑剤製品についても、原料の調達難により販売数量減となりましたが、高騰する原料価格に対応すべく製品価格の改定を行った結果、売上高は前年を上回りました。

自動車産業向け製品においては、完成車メーカーにおける減産の影響を受け、売上高は前年を下回りました。

電子材料向け製品においては、中国のゼロコロナ政策継続による景気停滞の影響が大きく、同国への輸出が低迷したため、売上高、数量ともに減少しました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は前期末比1.0%増となり、金額で4億6百万円増加の404億9千2百万円となりました。

流動資産につきましては、現金及び預金や受取手形及び売掛金が減少したものの商品及び製品が増加したことにより、前期末比0.3%増、金額で5千9百万円増加の213億8千8百万円となりました。固定資産につきましては、投資有価証券の時価が上昇したことにより前期末比1.8%増となり、金額で3億4千6百万円増加の191億3百万円となりました。

流動負債につきましては、短期借入金の増加などにより、前期末比3.6%増、金額4億8千6百万円増加での140億3千5百万円となりました。固定負債は長期借入金を返済したことなどにより、前期末比1.6%減、金額で1億5千5百万円減少の93億8千1百万円となりました。

純資産につきましては、為替換算調整勘定が増加したことなどにより、前期末比0.4%増、金額で7千5百万円増加の170億7千4百万円となりました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は39.6%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末に比べ、5億9千1百万円減少し、27億3千7百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、資金は15億4千7百万円減少(前年同四半期は2億1百万円増加)しました。これは主に、棚卸資産の増加13億6千5百万円及び仕入債務の減少12億3千5百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、資金は9千万円減少(前年同四半期は13億3千万円減少)しました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1億1千2百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、資金は10億4千6百万円増加(前年同四半期は24億6千3百万円増加)しました。これは主に、短期借入金の純増9億4千5百万円及び長期借入金の純増3億8百万円、配当金の支払額1億8千4百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、最近の業績の動向を踏まえ、2022年5月12日に公表した通期の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日公表した「2023年3月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,495	2,909
受取手形及び売掛金	12,168	11,382
商品及び製品	2,137	2,946
仕掛品	1,419	1,985
原材料及び貯蔵品	1,786	1,776
その他	324	391
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	21,329	21,388
固定資産		
有形固定資産		
土地	4,281	4,281
その他(純額)	5,651	5,627
有形固定資産合計	9,933	9,909
無形固定資産	33	30
投資その他の資産		
投資有価証券	8,096	8,492
その他	695	672
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	8,790	9,163
固定資産合計	18,757	19,103
資産合計	40,086	40,492

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,965	6,730
短期借入金	2,226	3,172
1年内返済予定の長期借入金	1,629	2,141
未払法人税等	207	70
賞与引当金	278	276
その他	1,242	1,645
流動負債合計	13,549	14,035
固定負債		
長期借入金	6,100	5,896
役員退職慰労引当金	83	83
退職給付に係る負債	1,926	1,925
その他	1,426	1,476
固定負債合計	9,536	9,381
負債合計	23,086	23,417
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,660	5,660
資本剰余金	4,075	4,075
利益剰余金	4,427	4,193
自己株式	△0	△0
株主資本合計	14,163	13,929
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,063	2,064
繰延ヘッジ損益	—	2
為替換算調整勘定	△297	21
退職給付に係る調整累計額	7	2
その他の包括利益累計額合計	1,773	2,090
非支配株主持分	1,062	1,054
純資産合計	16,999	17,074
負債純資産合計	40,086	40,492

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	15,212	16,861
売上原価	12,524	14,548
売上総利益	2,688	2,312
販売費及び一般管理費	2,296	2,522
営業利益又は営業損失(△)	391	△210
営業外収益		
受取配当金	77	90
持分法による投資利益	100	209
為替差益	1	—
その他	20	38
営業外収益合計	200	338
営業外費用		
支払利息	19	24
為替差損	—	21
シンジケートローン手数料	43	0
研究所移転費用	21	—
その他	2	19
営業外費用合計	86	66
経常利益	505	61
特別損失		
固定資産除却損	6	—
減損損失	2	—
投資有価証券評価損	29	24
特別損失合計	37	24
税金等調整前四半期純利益	467	37
法人税、住民税及び事業税	114	40
法人税等調整額	21	30
法人税等合計	136	71
四半期純利益又は四半期純損失(△)	330	△34
非支配株主に帰属する四半期純利益	31	13
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	299	△47

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	330	△34
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	220	1
繰延ヘッジ損益	—	2
為替換算調整勘定	△4	△0
退職給付に係る調整額	3	△5
持分法適用会社に対する持分相当額	167	319
その他の包括利益合計	388	316
四半期包括利益	718	282
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	687	269
非支配株主に係る四半期包括利益	31	13

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	467	37
減価償却費	368	348
賞与引当金の増減額 (△は減少)	42	△1
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	3	△0
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△1	△0
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	53	△6
受取利息及び受取配当金	△79	△93
支払利息	19	24
持分法による投資損益 (△は益)	△100	△209
固定資産除却損	6	—
減損損失	2	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	29	24
売上債権の増減額 (△は増加)	△997	786
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△500	△1,365
仕入債務の増減額 (△は減少)	783	△1,235
その他	105	150
小計	201	△1,541
利息及び配当金の受取額	79	201
利息の支払額	△19	△25
法人税等の支払額	△60	△180
営業活動によるキャッシュ・フロー	201	△1,547
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	—	△5
有形固定資産の取得による支出	△1,173	△112
無形固定資産の取得による支出	△1	△0
投資有価証券の取得による支出	△150	△0
貸付金の回収による収入	3	35
その他	△7	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,330	△90
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△91	945
長期借入れによる収入	3,552	1,200
長期借入金の返済による支出	△868	△891
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1	△1
配当金の支払額	△111	△184
非支配株主への配当金の支払額	△15	△20
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,463	1,046
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,334	△591
現金及び現金同等物の期首残高	2,988	3,329
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,322	2,737

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。